

## 平成26年度全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

三重県教育委員会

平成26年11月6日

本年4月に小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が、8月25日に文部科学省から公表されました。

本県では、平成24年度から、子どもたちの学力向上に学校・家庭・地域が一体となって取り組む「みえの学力向上県民運動」を展開してきました。このような中、教科に関する調査結果は、全ての教科で全国の平均正答率を3年連続下回るなど厳しいものであり、今こそ、三重の教育に携わる関係者が心をついにこの状況を改革していく必要があります。

教科に関する調査では、小・中学校とも国語に大きな課題があるとともに、小学校では算数にも課題がありました。

特に、国語においては、

- ・既習の漢字や故事成語の意味や使い方を正しく理解し、実生活の中で適切に用いること
  - ・目的に応じて、事実と感想、意見などの関係を整理して書いたり読んだりすること
- などに課題がありました。算数・数学においては、
- ・B問題（主として「活用」に関する問題）では、A問題（主として「知識」に関する問題）と比べると無解答率が高く、全国と比較してもその差がA問題より開いている状況にあること
  - ・関係を見だし説明したり、根拠を明らかにして筋道を立てて説明したり、表現することなどに課題がありました。このようなことから、学習活動の基盤となる言語に関する能力の育成についての課題が、主として「活用」に関する問題（B問題）の無解答率の高さにもつながっていると推察されます。

児童生徒や学校に対する質問紙調査では、全国平均と比較して、校内研修の実施回数が多いにもかかわらず、授業の進め方（「めあての提示」と「振り返る活動の計画的な設定」等）の改善がなされていない、学校での校長の授業の見回りが少ない等、基本的な指導方法の徹底や組織的な取組に課題があります。また、朝の読書は実施しているものの学校図書館を活用した授業の取組が少ない等の状況にあります。さらに、地域の行事への参加や学校への地域人材の協力は多く、家庭での学習時間についても一定の改善が見られるものの、全国に比べると学習・生活習慣にも課題がありました。

今回の調査結果から、子どもたちの可能性を十分に引き出せていない現状を真摯に受け止め、当調査で明らかになった児童生徒の学力の定着状況や学習状況、生活習慣等とこれまでの取組とを関連付けて検証を行いました。

県教育委員会では、ここにお示しした内容を広く県民の皆様方と共有するとともに、市町教育委員会や学校等と連携し、子どもたちの学力向上のために取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、調査結果の取扱いについては、文部科学省が示す実施要領における「(5) 調査結果の取扱いに関する配慮事項等」をご覧ください。

「実施要領（抄）」[PDF](#)（148KB）

### <掲載内容>

- [1 教科に関する調査の結果・分析](#)
- [2 質問紙調査（児童生徒用・学校用）の結果・分析](#)
- [3 学力向上に向けた施策取組結果等の状況](#)
- [4 児童生徒の学びの充実を図るための県教育委員会による今後の取組](#)
- [5 各市町等別の質問紙調査（児童生徒用・学校用）の結果等](#)
- [6 各市町等別調査の結果・分析と今後の取組](#)